

## 15. 園児に対する参加型環境教育に係る効果について

羽田野雅司、土屋雄一（松本市環境政策課）

キーワード：園児、保護者、参加型、環境教育、意識及び行動の変化

**要旨：**園児に対する環境教育を行った場合、園児及び保護者の意識及び行動にどの程度変化があるかについて調査を行った。その結果、環境教育を受けた後の園児の約5割に意識及び行動に変化が現れたほか、保護者の約4割にも変化が見られており、園児に対する環境教育が家族にも伝わり、効果をあげていることがわかった。

### A. 目的

環境に対する意識を高め、環境保全活動への取組みを促進するためには、子ども達への環境教育が必要である。そこで、本市では、感受性が豊かな園児を対象に、クイズや踊り等を交えた参加型の環境教育を平成23年度から実施している。

本調査では、環境教育の効果を検証するため、環境教育実施後の園児及び保護者に対する意識及び行動の変化等について分析を行った。

### B. 方法

#### 1 参加型環境教育（動機付け）

園児に対して難しい内容で環境教育を行っても効果は期待できないことから、「ごみの分別と食べ残し」という身近なテーマに絞り、リサイクルの重要性と食べ物の大切さを楽しく学んでもらうためのプログラムを作成した。また、一方的な説明になると園児が飽きてしまうことから、質問、クイズ、踊り等園児が積極的に参加できるような内容にするとともに、イラスト、写真、効果音等を使い園児が興味を持ちやすい内容に工夫した。

環境教育の対象は、市内の市立全46保育園（幼稚園）の年長児（5～6歳）1,354人とし、平成25年5月～12月にかけて、順次実施した。

プログラムの内容（約30分）

- ・パワーポイントを使ったクイズと説明  
「捨てたものはどうなる？」  
ごみとして捨てられたものはどうなるのか。分別したものは、使えるものに生まれ変われることを、パワーポイントを使い、クイズ形式で説明。  
「食べ残したものはどうなる？」  
食べ残した食品残渣は焼却場で燃やされるが、食べたものは、体をつくり、元気にしてくれる。また、心をこめて作ってくれた人への感謝の心が大切ということを説明。
- ・実際に分別してみよう  
お菓子の箱、アメの袋等、ごみ箱に入っているものを実際に分別。
- ・踊ってみよう

「おいしくのんでリサイクル」をみんなで踊る。

### 2 効果測定

環境教育実施後の約2ヶ月後に、環境教育を実施した園児すべての保護者に対してアンケート調査を実施し、園児、保護者の意識の変化の有無、具体的な行動の変化等を調査した。

アンケートは未記名とし、その配布、回収は、保育園を通じて実施し、強制のないよう配慮した。

### C. 結果

#### 1 回答数 907人（回収率67.0%）

#### 2 意識及び行動の変化

環境教育を受けた後に、「意識や行動に変化があった」とした園児の割合は、48.7%で、約半数の園児の意識と行動に変化が現れた。

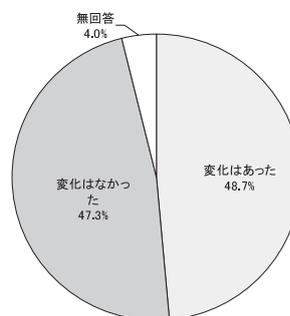


図1 環境教育後の園児の意識及び行動の変化の有無

食べ残し等に係る具体的な行動の変化としては、「残さず食べるようになった」が57.2%と最も多く、

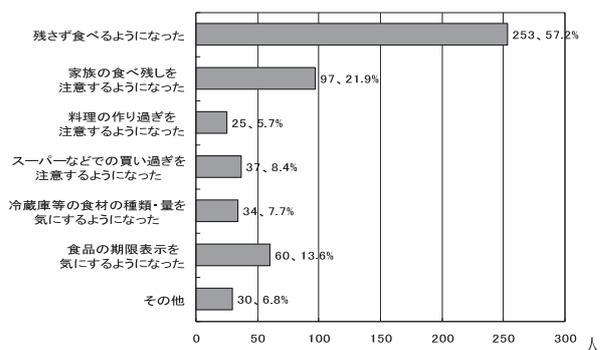


図2 食品ロスに係る具体的な行動の変化の内容

次に「家族の食べ残しを注意するようになった」が21.9%と続き、園児が自ら行動していることにつながっていることがわかった。

また、ごみの分別に係る具体的な行動の変化としては、「リサイクルという言葉を使うようになった」が52.5%と最も多く、「お菓子の袋などのプラスチック類を分別するようになった」38.0%、「お菓子の箱などの紙類を分別するようになった」34.6%と続いた。

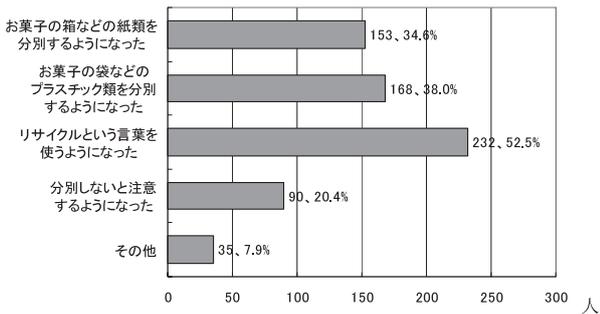


図3 ごみの分別に係る具体的な行動の変化の内容

次に、環境教育を受けた後の保護者の意識や行動の変化については、「食品ロスの削減に気を付けるようになった」15.3%、「ごみの分別に気を付けるようになった」19.7%、「両方気を付けるようになった」6.0%と、全体で41.0%に変化が現れており、園児に対する環境教育が保護者にも伝わり効果をあげていることがわかった。

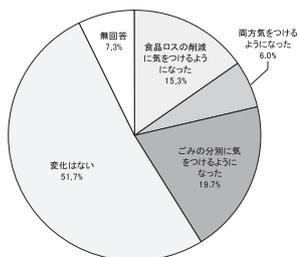


図4 環境教育実施後の保護者の意識及び行動の変化

保護者の意識や行動の変化の割合を、その子どもに意識や行動の変化があった場合とない場合とで比較すると、子どもの意識や行動に変化があった場合では、57.2%の保護者に意識や行動の変化が現れたのに対して、子どもの意識や行動に変化がない場合では、27.6%と半分程度となった。しかし、園児の意識及び行動に変化がなくても保護者の意識及び行動に変化が起きていることがわかり、園児が家庭で保護者に環境教育の話をするだけでも保護者に対して一定の効果があることがわかった。

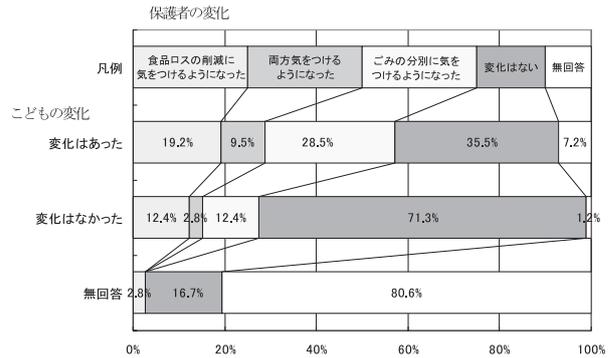


図5 子どもの変化の有無による保護者の変化の違い

環境教育に保護者が参加した場合と参加しなかった場合の保護者の意識や行動の変化の割合を比較すると、「食品ロス削減に気を付けるようになった」割合は、ほぼ変わらない結果となったが、「両方気を付けるようになった」、「ごみの分別に気を付けるようになった」は、保護者が参加した方が倍近く変化の割合が高く、保護者が自ら参加した方がより効果があることがわかった。

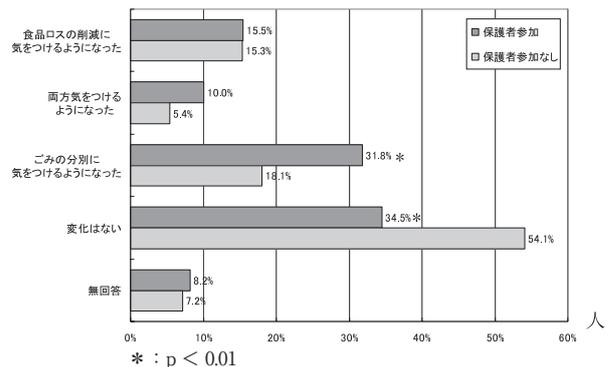


図6 保護者の参加の有無による保護者の意識変化の違い

#### D. 考察・まとめ

園児に対する環境教育は、園児でも分かりやすく工夫をすることで、十分伝わり、意識や行動の変化に結びつくことがわかった。また、園児は理解したことを素直に吸収するだけでなく、その日に園であったことを保護者に話すことが多い。その結果、保護者に対する効果が表れていると推測されるが、この傾向は小学生、中学生と年齢が上がるほど、低くなることが予想される。

今回の結果からも、できるだけ小さいころから環境教育を行うことは、保護者に対する2次的な効果も含めて非常に有効であると言える。

そこで、今後も引き続き園児向けの環境教育を実施するとともに、できるだけ保護者の参加も呼びかけ、一層の効果を上げたいと考えている。